



鼻高公民館だより

発行：高崎市鼻高公民館 高崎市鼻高町 33-5 電話・FAX 322-9100
まなびネットたかさき HP <http://takasaki.manabi365.net/>



新しい本が入りました。
ご利用ください。

書名	著者名
君を守ろうとする猫の話	夏川 草介
憤怒の人	杉山 響子
成瀬は都を駆け抜ける	宮島 未奈
失われた貌	櫻田 智也
弔いのひ	間宮 改衣
PRIZE	村山 由佳
青天	若林 正恭
イン・ザ・メガチャーチ	朝井リョウ
自分らしく生きるということ	曾野 綾子
大河の一滴 最終章	五木 寛之
六月の満月	一雫ライオン
ブティック	池井戸 潤
最後までひとり暮らし	田村セツコ
クラブ・カフカへようこそ	本田 敬幸
82歳、現役女医が教えるすごい野菜スープ	天野 恵子
神国日本	小泉 八雲

【期日】 令和8年10月21日（水）
【時間】 午後2時～4時
【場所】 鼻高公民館 2階講義室
【定員】 30人（鼻高地区住民優先）
【費用】 無料
【内容】 ①認知症とは ②認知症の初期症状は ③認知症かな？と思うたら ④認知症の予防とは ⑤質疑応答

【講師】 はぎわら内科医院長 萩原 修先生
【申込み】 10月5日（月）～10月16日（金）迄に平日の午前9時～午後5時までに鼻高公民館まで申込みください。



《参加者募集》

Ⅱ地域の健康教室Ⅱ 医師による健康講話

知っておきたい認知症の基本

誰もがなりえる認知症を正しく理解し、認知症を身近な問題として考えていきます。医師から認知症の症状や予防、対処の仕方等を学びます。

《隣町散策》

八幡台地フラフラ歩き

生涯学習推進員の隣町散策シリーズ。今回は八幡八幡宮、大聖護国寺、観音塚考古資料館など「八幡の歴史と文化・史跡」を訪ねます。歩行距離は約6・5kmです。



【期日】 令和8年11月5日（木）
※小雨決行（豪雨中止）
【時間】 鼻高公民館へ午前9時集合、出発。（帰着は午後3時半頃）
【対象】 鼻高地区在住の人、15人
【費用】 無料

【持ち物】 ザック、昼食、雨具、帽子、歩きやすい服装と靴、その他各自が必要とする物
【申込み】 10月2日（金）、午前9時から鼻高公民館で受け付けます。

生涯学習推進員主催事業 2講座 Ⅱ参加者募集Ⅱ

はなだか 花のまちづくり講座

プランターに花を植えて鼻高のまちを花で飾ります。花は各自宅に持ち帰るほか、公共施設に届け、鼻高全体をきれいな花で飾ります。



【期日】 令和8年10月22日（木）
※雨天実施
【時間】 午前9時30分～11時30分
【場所】 鼻高公民館 駐車場
【対象】 鼻高地区在住の人、15人
【費用】 300円（花苗、肥料代等）
【用意する物】 持ち帰り用のプランター

ター2個、軍手、帽子、移植ゴテ、汚れてもよい服装
【申込み】 10月2日（金）、午前9時～10月15日（木）までに費用300円を添えて鼻高公民館へ申し込みください。



鼻高の四季

II 写真で綴る鼻高の宝 ④8

中山道の往来 II

街道は人・もの・文化・情報・事件などを運びますが、歴史上様々な出来事の舞台でもありました。国道18号線八幡大門付近でたまたま遭遇した私の個人的な思い出ですが、60年経った今でも印象に残っています。

連合赤軍の

あさま山荘事件

昭和47年(1972)軽井沢のあさま山荘に永田洋子をはじめとする連合赤軍が立てこもり警察隊と銃撃戦を行った時です。

連日テレビで事件の様子が報道されていました。大

云えどもモーターゼーションが発達する以前の片道一車線で車両の通過はそれほど多くなかった時代です。

そこへあさま山荘事件に対応していた車両と思われるテレビ局フジオ局の報道車、警察機動隊車両、工事車両等々の車列が延々と続いて東京方面へ向かっていたのでした。第一波が通過したかと思うと1〜2分後に第二波、第三波と特殊車両の列が続いたのでした。

最近ロシアがウクライナを侵攻するときに、ロシアの軍用物資を満載した軍用車両や戦車・武器などを満載した鉄道車両等が平原地帯を延々と走る映像がテレビニュースで放送されますが、それと同じような異様な光景を覚え、その記憶が60年経った今でも昨日のように思い出されます。

大久保清の殺人事件

この時と同じ昭和47年という、高崎で発生し全国

を震撼させた大久保清の殺人事件がありました。

大久保清は群馬八幡に住んでいた人なのですが、どちらかというと当時としては割と裕福な家庭に育った人だと聞いています。大久保清は配達の仕事もしていたので、筆者の私はまだ高校生ぐらいだったと思います。が、本人に会ったことがありません。自家用車などにはあまり普及していない時代にマツダのファミリアなどを乗り回し、ちょっとおしゃべりな人だったという印象があります。前橋の田園という喫茶店が定宿だったそうです。

道路では色々なことが起こります。事件の後、友達から聞いた後日談なのですが、その友達が話すには「私は大久保清と思われる人に声をかけられたことがある」というのです。当人はその当時、女子高生で定時制の夜学に通っていたのですが、

仕事が終わりに、決まった時間にバス停でバスを待っていると、ベレー帽を被ったちょっとしゃれた人が声をかけてくるのだそうです。最初は道を尋ねる程度の話なのですが、バスの時間を待つという毎日の決まった時間帯なので、まめに何度か声をかけてくるのだそうです。高校に行くため高崎に行くならば、私も高崎に行くので乗せて行つてあげると言うのです。ために声を掛けてきて、だんだん顔見知りになり、親切な人と思うようになり、気を許してしまう可能性もあったのではないかと。あの人は大久保清ではなかったのか？

当時、開発造成中だった八幡の第二工業団地付近や烏川沿い等はこの事件の現場だったのです。

街道では様々な人生模様があります。(次号に続く)